

# 第1章 平成28年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53年(1978)設置以降、山口大学構内が所在する遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開、また埋蔵文化財・考古学にかかわる社会教育活動を行っている。具体的には、展示・情報公開活動として、当館展示室において年度内に3回程度の資料展示を行うこと、刊行物やホームページなど各種メディアを通じて遺跡及び収蔵資料の情報を公開すること、社会教育活動としては講座やワークショップの開催、授業や講演会等への講師派遣など、学内外の要望に応じた地域連携・生涯学習支援活動を実施することである。

平成28年度は、展示活動として、第37回となる企画展のほか、県内の大学博物館・図書館が各大学の学術資料や研究成果を展示にて公開する「山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携事業」に継続参加し、本学委員会である山口大学学術資産継承事業委員会の事業成果展『宝山の一角』共催館として、展示室の提供と展示構築・広報支援などを行った。情報公開活動としては、平成12年度の構内遺跡調査研究年報と、『見島ジーコンボ古墳群 第123号墳・第152号墳(再)・西部域出土資料調査報告』、広報誌『てらこや埋文』を刊行した。社会教育活動としては、平成27年度に山口県立山口博物館と締結した連携協力協定に基づき、『講座 遺跡ウォークラリー』を開催した。

当年度の総入館者数は、当館設立後最多となる2,192名となり、前年度に比して10%増加した(表1)。月別入館者数を見ると、例年どおりオープンキャンパスが開催される8月が最多入館者数となっており、新入生ガイダンス等で活用される4～6月も増加傾向を見せている(表2)。

次頁より、当該年度に実施した展示・情報公開活動と社会教育活動の詳細を報告する。

表1 埋蔵文化財資料館利用者の推移

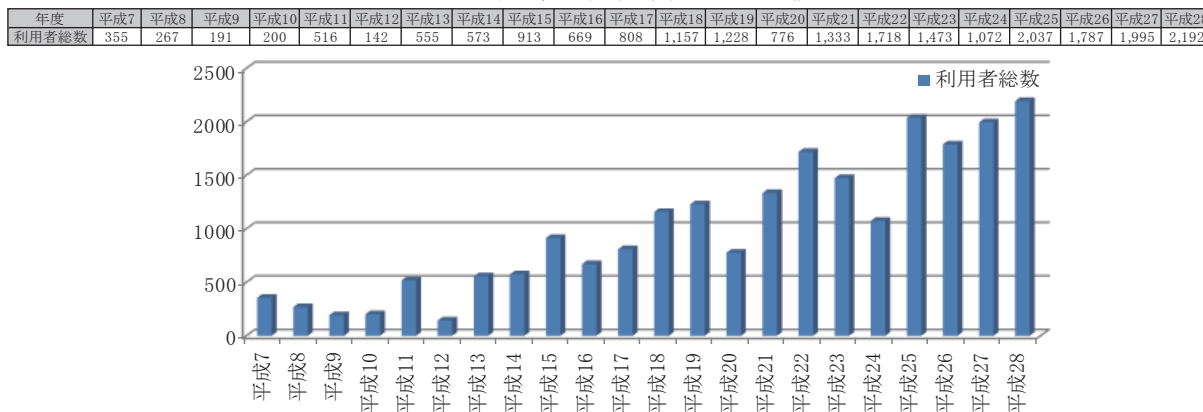


表2 平成28年度月別入館者数

